

ここからみんなではじめよう

震災で被災した相馬市の縫製会社など8社が結束し、「ソーマ・スピリッツ」を結成。独自ブランドを設立し、一から商品の企画、生産、販売に挑戦。ものづくりによる復興の活動を進めています。

ソーマ・スピリッツ (SOMA SPIRITS)

☎0244-36-5557



▲談笑を交えた企画会議で、イベント出展の話が持ちあがりしました

◀東京で開催された復興祭に「ALRISHA by SOMA」を出展。ブランド名の「アルリシャ」は「ひも」の意味をもち「絆」をイメージ

支援してくれた方々に、ものづくりを通して恩返しをしたい。

「ソーマ・スピリッツ」は、平成24年に相馬市の縫製会社など8社が、国や県の補助金制度を活用し発足した企業グループです。メンバーのうち数社では、津波で工場や店舗が流失・損壊するも、「立ち止まっても前に進めない。できることから始めよう」と会長の木村昭夫さんを中心に活動を開始。工場の再建や修理を進めた後、「支援してくれた方に、ものづくりを通して恩返しをしたい」と、独自の婦人服ブランド「ALRISHA(アルリシャ) by SOMA」を設立。デザイナーに協力を仰ぎ、コートやシャツ、スカートなどの生産・販売を開始しました。「手仕事にこだわった商品を通して、相馬の現状や想いを伝えていきたい」と、量産はせず丁寧に服作りをしています。生地には県内外や海外のシルクなど高級素材を積極的に使用しています。



▲津波被害を受けた工場

現在は、月に1回程メンバーで集まり企画会議を開催。10月17日に行われた会議では、春に販売する商品の生産や販売について、活発な意見が交わされました。今後は、積極的にイベントなどに出展し、商品を広めていく予定。相馬復興への思いと感謝を胸に、「ソーマ・スピリッツ」の挑戦は続きます。



▲「今後は、利益を社会福祉団体に寄付していきたい」と話してくれました



▲男性向けに製作されたネクタイには、柄に馬や相馬の木や花をイメージ。相馬の想いが縫い上げられています

苗を注文した直後に東日本大震災があったんです」と関さん。「せっかくなので始めたいからには植えてよ」と声を掛け合い、苗を植えたのが、震災のあった年の春。ブドウ生産だけではなくワインづくりまで取り組みたいと、秋には「果実酒特区」の申請に向けて準備を始めました。活動の拠点として選んだのは、40年以上前に建てられた「稚蚕共同飼育所」。建物は傷んでいましたが、採取した桑を貯蔵しておく地下室もあり、ワイナリーにするのにもぴったりでした。「あるものを活かすのが、東和らしさですよ」と関さん。「ワ

農業には、やり方次第で無限の可能性がある

こよなく東和地区を愛する関さんは、かつて農林水産省に勤めていました。人事交流で来た旧東和町に魅力を感じ、就農したのが7年前。「山を手入れし、その恵みを取り入れて農業を営むこの地域に、環境保全と農業の両立の答えがある気がしました。やり方次第で、農業には無限の可能性が広がっています」。

原発事故を経てからも、「農業はやり方次第」という関さんの考えは変わらないと言います。「車で来た人がワインを飲んだら、その日は帰れませんので、泊まってもらえる着地型観光に発展させていければいいと思います。ブドウの生産から消費者に参加してもらおうアルコールツリーズムというジャンルを、ここから確立していくのも手ですね」。最終的な目的は、東和のファンを増やすこと。そこそが農業を元気にする力という関さんの言葉は、説得力に満ちています。



(上) 地元産の羽山りんごで作ったシードルは購入が可能。在庫の確認は、ふくしま農家の夢ワイン(株) TEL 0243-24-8170まで

(下) 二本松市東和地区は起伏の多い地形が特徴で、土壌には、里山の恵みである有機物が豊富に含まれています。モニタリング検査で農産物の安全性も確保されています



Future
From
Fukushima.



ふくしまからはじめよう。

二本松市東和地区で、震災のあった春に植えられたブドウが、この秋、収穫を迎えました。この日に向けて会社を立ち上げ、ワイン製造の免許を取得した農家の大きな夢が少しずつ叶いはじめています。



二本松市

お酒の好きな農家たちが
楽しみながらワインづくり

里山の坂道を登り切ると、青い空のもとに収穫後のブドウ畑が広がります。ここで採れるヤマ・ソービニオンというブドウは、ワインづくり専用の品種です。

「今年初めて収穫し、ワインに仕込んだところです。まだ販売するほどの量はできないのですが、来年は他の畑でも収穫できるのです。一般向けに販売もできます。楽しみにしてください」
そう話してくれたのは、『ふ

くしま農家の夢ワイン株式会社』取締役の一人、関さんです。この会社は、二本松市東和地区の農家8人が「耕作放棄地にブドウを植えてワインを作ろう!」と昨年9月に立ち上げました。

「3年前、地域のお酒が好きな人たちが集まって話している時に、ワインを作れたら面白いだろうなあ」と盛り上がりました。そこで産地に見学に行って、



(右) 関元弘さん(42歳)は有機農産物の生産農家。平成18年に奥さんと共に移住し、現在は子ども2人の4人家族です。発泡酒も製造・販売中

(下) 社屋入り口にある機械は、バスケットプレスと呼ばれるブドウ圧搾機。収穫してすぐ、これで皮をとれば白ワインに、皮を付けたまま発酵させれば赤ワインになります

今回から「ふくしまの今」というタイトルを改め、「ふくしまからはじめよう」としてリニューアルします。県内で新しいチャレンジをする人たちが頑張っている人たちをとりあげていきます。

ふくしま農家の夢ワイン株式会社 ● 取締役

関元弘さん (二本松市東和地区)

みんなの夢が詰まったワインで乾杯 「アルコールツーリズム」を福島から!

